

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 資本論 | 資本論 (8)

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

教育カリキュラム

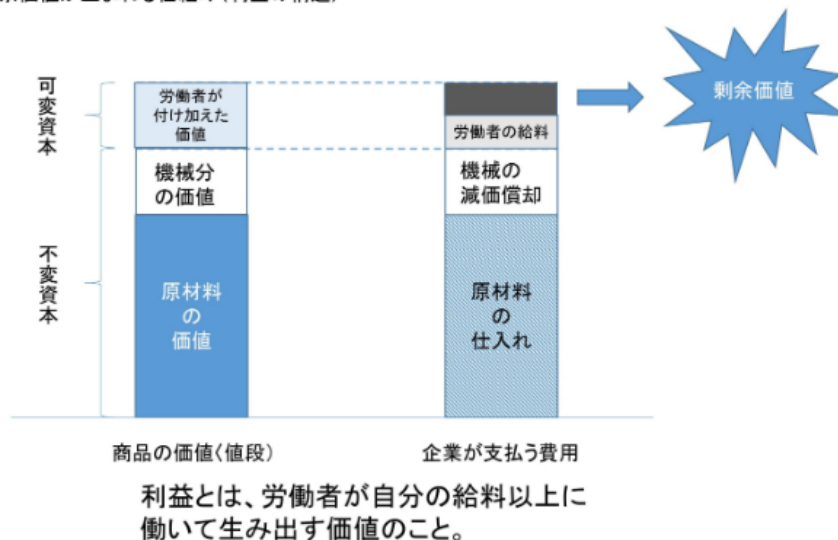
日本国憲法

資本論 (8)

資本が登場すると、それまでの商品の流通とは異なる形式が生まれる。それまで生産者が自分の商品を持って貨幣に替えるのは、自分の欲しい商品を買うためであったが、資本の場合は、貨幣を持って商品を買ひ、それを売って貨幣を手に入れるという形式になる。いわば売るために商品を買うという貨幣の自己運動となる。出発点と到達点は同じ貨幣であるが、その量は異なり、出発点の貨幣に儲けを付加することが目的となる。この運動が「資本の運動」となる。だから資本主義経済のなかでは、企業は利益を追い求めていく宿命にあるのだ。

マルクスは、この儲け分の貨幣を「剰余価値」と名づけた。そしてその剰余価値は、人間の「労働力」という商品によって生み出されると考える。資本主義では、労働者は自分の労働力を商品として売り、賃金を得て生活に必要なものを買う。これを「労働の商品化」といい、「労働の商品化」は資本主義の成立にとって不可欠の要素となり、剰余価値は資本家の労働者からの搾取であるとマルクスは説いた。労働者が、自分で生きていくために必要な量以上に働いて剰余価値を生み出し、それが企業の利益となるのだ。

剰余価値が生まれる仕組み(利益の構造)



その剰余価値には、3つの種類がある。

- ① 「絶対的剰余価値」
- ② 「相対的剰余価値」
- ③ 「特別剰余価値」

どれも剰余価値には違いないが、その生み出され方が違う。

(つづく)

傾聴

語り部スキル

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

🔍 キーワード検索はこちら

📄 サイトマップ 📄 このサイトについて 📄 個人情報保護の取組みについて

🏠 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.